

私見・日本の大洞窟リスト

【寄稿するにあたって】

夏になると、マスコミから「日本の洞窟ベスト10を教えてください。」という問い合わせがよくあります。「はい、どうぞ。」と提供できればいいのですが、現時点においては日本洞窟学会で管理している大洞窟リストはなく、「あくまでも個人的見解のものでよろしければ・・・」と注釈付きでリストを提供しています。

これまで大洞窟に関する全国的リストの刊行物としては、「愛媛大学洞穴研究グループ, 1972. 全国洞穴所在地一覧」「中川寛一・洞窟学研究会, 1979. 日本の大洞窟」「神谷夏美・水島明夫, 1987. 日本の大洞窟」「水島明夫, 1996. 日本の大洞窟」などがありますが、最終リストから14年もの月日が流れ、その間には各地で新洞や新洞部が次々と発見、また測量精度をあげた再調査がなされてきました。

大洞窟リストを作成する上では、基準をどのようにするかが一番問題です。例えば、測量図や測量数値の公表の有無、測量精度、斜距離と水平距離の分類など、様々な基準が考えられ、その基準によってリストが大きく変わってしまいます。

寄稿した日本の大洞窟リスト(総延長1,000m以上・高低差100m以上)は、日本洞窟学会会員である寄稿者が、下記に示す基準により、洞窟情報を収集して作成したものです。より信頼性の高いものを目指していますが、あくまでも個人的なものであり、日本洞窟学会による公式なリストではありませんので御了承ください。

日本洞窟学会の測量記録委員会では、大洞窟リストを作成するとともに、全国の洞窟を取りまとめる動きがあります。そこでは別基準により、この大洞窟リストとは違ったものになると思いますが、このような私見リストも楽しんでいただけたらと思います。

【リストへの掲載基準】

「日本の大洞窟(1987)」を基本とし、報告書、論文、ケイビングジャーナルなどによって発表された総延長1,000m以上、または高低差100m以上の洞窟を掲載。ウェブサイトや私信も信頼がおけると判断したものは掲載した。

測量精度、日本洞窟学会への報告の有無、母岩の種類は問わない。

【リストの説明】

1. 順位

規模の大きいものから順位付けをし、同規模に関しては同順位とした。

2. 洞窟名称

最も一般的な名称を表記した。複数の洞窟が連結している場合は一で表記した。観光開発されている洞穴に関しては、「氷渡洞一坪沢穴」「空穴第2洞」「マリヤイザー」「千仏一芳ヶ谷洞」などケイビング界では一般的な名称でも、「氷渡探検洞」「白蓮洞」「石垣島鍾乳洞」「千仏鍾乳洞」といったように観光洞名に統一した。

3. 所在地

洞のある市町村名を表記した。洞口が複数の自治体に開口している場合は、メイン洞口がある自治体名とした。

4. 総延長と高低差

発表された数値は検討せずにそのまま使用、水平距離と測線延長距離の2通りがある場合は後者を優先とした。小数点第2位は切捨てとした。+の表記は○○以上と報告されているもの、または未測量部分が残されてるため今後数値が延びる可能性があるという意味である。

5. 参考文献

数値の根拠となった報告書などの出典先を別欄に表記した。誌面の都合で書名・発行年・発行者のみの掲載とした。

【文献】

■愛媛大学洞穴研究グループ(1972): 全国洞穴所在地一覧。洞穴学草稿, 75-122。 ■中川寛一・洞窟学研究会(1979): 日本の大洞窟。山口ケイビングクラブ会報, 15, 3-10。山口ケイビングクラブ。 ■神谷夏美・水島明夫(1987): 日本の大洞窟, 80pp。日本ケイビング協会。 ■水島明夫(1996): 日本の大洞窟。ケイビングジャーナル, 1, 30-32。日本洞窟学会。 ■水島明夫(1996): 日本の火山洞窟。ケイビングジャーナル, 2, 13。ケイビングジャーナル。